

高齢社会対策大綱の策定のための検討会（第 5 回）

2024 年 5 月 20 日

慶應義塾大学商学部

権丈善一

日本では social prescribing は社会的処方と訳される。イギリスを訪問した「[日本医師会欧州医療調査](#)」によれば、イギリス側が、social prescribing = 生活支援と説明していたとのこと。

イギリスの GP と、日本で今活動しているプライマリ・ケア医は、彼らを取り巻く制度は大きく異なる。しかし、この国の人たちが、プライマリ・ケア医、家庭医を詳しく知らないことも事実であるので、次の文章を紹介しておく。なお、日本プライマリ・ケア連合学会理事長草場鉄周氏は、プライマリ・ケアの活動として、「地域が抱える社会的課題に向き合い、地域包括ケアにおけるメンバーとして地域の多職種や医療・介護・福祉施設と協働して解決に取り組む」としている。

- ✓ [プライマリ・ケアって何？——松田晋哉先生、草場鉄周先生との鼎談 | kenjoh \(note.com\)](#) 『ちょっと気になる医療と介護 第 3 版』第 16 章にも所収

**全人的医療、それは医師の家族化のようなもの**

草場：こういった患者さんの身体面、心理面、また家族や生活する環境全体に配慮しながら提供する医療を「全人的医療」といいますが、決して診療姿勢だけでなく具体的なアプローチが大切です。

権丈：なんだか、プライマリ・ケアというのは、医師が家族の一員になってくれる、医師の家族化という感じですね。

...

権丈：草場先生が話されている世界は、ほんっと、日本人たちは見たことも聞いたこともないから、想像力が及ばないところでしょうね。想像力が及ばない世界を政策の選択肢として議論するのは心底難しくて、今までその難しさに、プライマリ・ケアの話はブロックされてきたよにも見えるんですよ。

...

「地域が抱える社会的課題に向き合う」とは

権丈：先ほど、不登校の相談にものるという話がありましたが、大門未知子だったら「いたしません」と言いそうな話も含めて、プライマリ・ケアでは、「地域が抱える社会的課題に向き合う」ということも重要になりますよね。僕はそれがとても魅力的に見え、僕が第 8 回全世代型社会保障構築会議（2022 年 11 月 11 日に提出した資料（[権丈構成員提出資料](#) 4 頁）にも、そのように書きました。そのあたりの説明を少ししてもらえますか。

草場：はい。日々診療していますと、外来診療の中で不登校の子が最近目立つなとか、通院するのに困っている高齢者が持病を悪化させるケースが増えているなとか、患者さんを取り巻く地域事情が診察室からも見えてきます。そうした時に、学校の保健の先生に相談したり、高齢者向けの通院に関するアンケート調査をすると、こうした問題が個々の事情だけでなく、実は地域全体が抱える構造的な問題であることが分かることもあります。…大門さんやドクターコトーと比べると地味で時間のかかる活動にはなりますが、我々家庭医は常にそうしたマクロの視点も忘れずに地域全体を健康にする活動が重要だと思っています。